

講義レジュメ

講 師 吉用 武史

内容・テーマ

高知大学の地域課題への取組

期 日 5月24日(木)

平成17年7月1日に「地域共同研究センター」「知的財産本部」「生涯学習教育研究センター」「留学生センター国際交流部門」を統合した国際・地域連携センターが設置され、平成25年度に地域と国際を分離した「地域連携推進センター」が発足。センターは、地域の産業界や自治体等の課題解決を通じた地域社会の健全な維持・発展を目的とする。

平成25年度から県全域的な地域課題への対応のため「高知大学インサイド・コミュニティ・システム(KICS)」を開始し、県内7箇所へのサテライトオフィス設置と4名の地域常駐型コーディネーター(UBC)配置を行い、また、高知県職員である地域産業振興監、地域支援企画員との連携体制を組んだ。KICSによりあらゆる地域から様々な課題や要望が寄せられ、多くの連携事業が生まれた。

一方、連携事業を一過性のものとせず将来にわたり継続するうえで、地域の担い手不足が常に問題となることから、地域の課題解決を担う中核人材の育成を地域連携推進センターにおける重要ミッションと位置づけ、課題分析に基づくプログラム構築を地域組織と共に検討し、実行している。同時に、中山間地域など県内各地域における学びのニーズに対する対応も行う。

多くの地域との連携事業が生まれる中、一方で10年続く大学の運営費交付金の毎年1%削減は当面継続され、大学運営は今後一層厳しさを増す。大学は生き残りをかけて外部資金獲得を高めることが求められており、地域連携推進センターにおいても利益創出が課題となっている。そのために、連携事業を通じて「地域に無くてはならない大学」となることが高知大学の使命となる。

〔参考文献〕

吉用武史：地（知）の拠点化に向けた高知大学の地域連携の取組，産学連携学 Vol. 13(1)，p15-23，2016.